

大阪城公園周辺地域 まちづくり方針（案）

～特定都市再生緊急整備地域をめざして～

令和7年3月

－ 目次 －

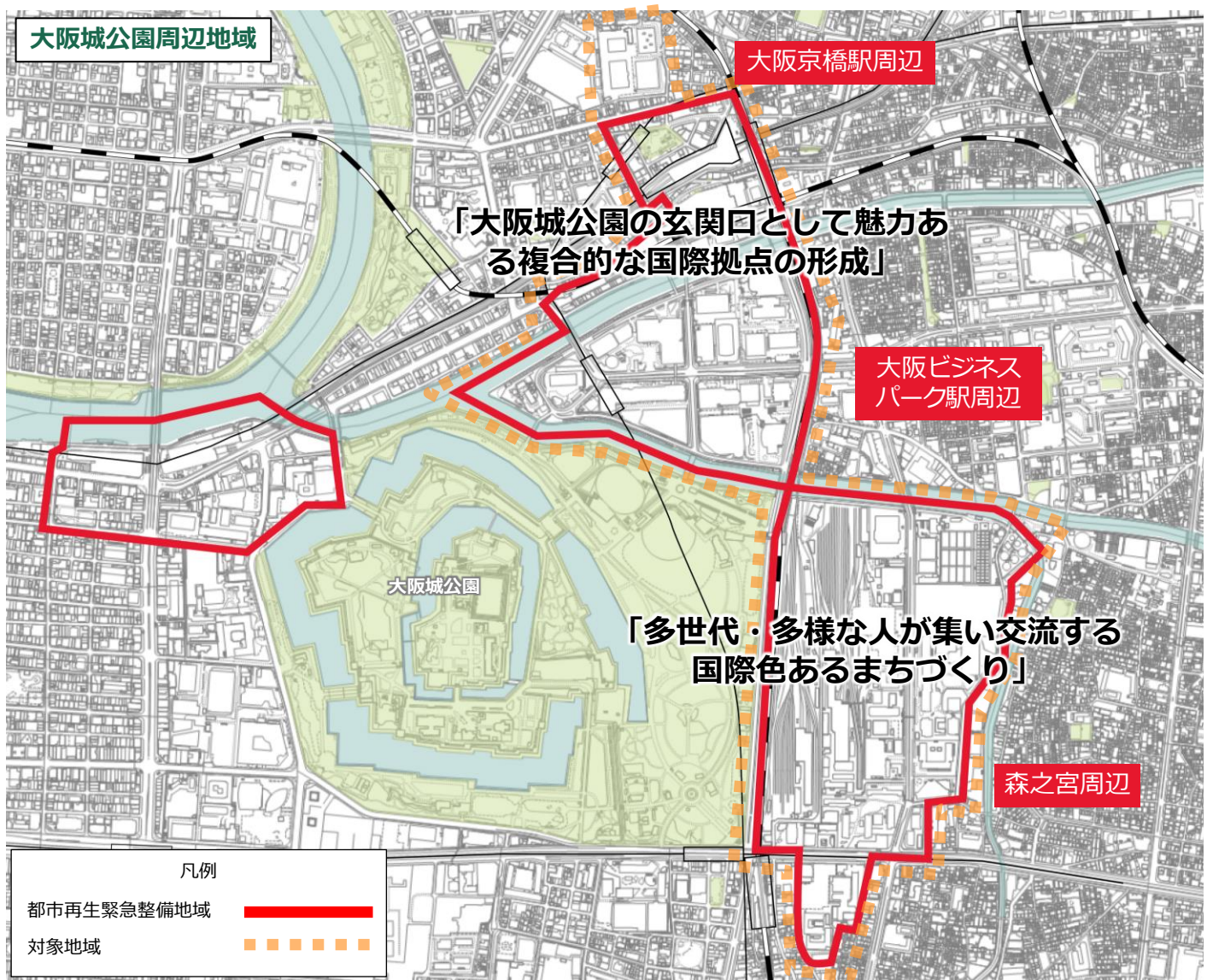
まちづくり方針の対象地域と位置づけ.....	p3
まちづくりの目標.....	p4
土地利用の方針.....	p8
基盤整備の方針.....	p12
スケジュール.....	p15
参考資料.....	p16

【まちづくり方針の対象地域】

- 都市再生緊急整備地域に指定されている大阪城公園周辺地域のうち、JR・京阪・Osaka Metroからなる主要ターミナルの京橋駅を中心とした「大阪京橋駅周辺」、大阪城公園の北部に位置し、ビジネス地区を形成する「大阪ビジネスパーク駅周辺」、大阪城の東部に位置し、大阪公立大学を先導役としたまちづくりが推進されている「森之宮周辺（※）」、以上の3エリアを中心とした次の図に示す範囲を対象地域とする。

【位置づけ】

- 本まちづくり方針は、各エリアにおいて都市再生緊急整備地域の地域整備方針や大阪のまちづくりグラウンドデザイン等に基づき取り組んできたまちづくりを前提としながら、今後の大阪の成長戦略「Beyond EXPO 2025」や基盤整備の動向、森之宮周辺における「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」に基づくまちづくりの具体化を踏まえ、大阪城公園周辺地域が一体となったまちづくりを進めるため、まちづくりの目標や土地利用の方針、基盤整備の方針を示すものである。
- 今後、本方針をもとに、国際競争力の強化に資する都市再生の推進や、民間都市開発等を促進するため、当該地域の特定都市再生緊急整備地域の指定をめざして、検討を進めていく。



(※) 「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」に基づく地区は、都市再生緊急整備地域における森之宮周辺であるため、本方針では「森之宮周辺」と表記する。

インバウンドを含めた観光客を呼び込む「国際観光拠点の強化」

大阪城公園には年間約1,100万人以上の観光客が来訪しており、その多くをインバウンドが占めている中、インバウンドの増加を機に、観光産業のさらなる充実強化に向けて、おもてなし対応などの充実を図っていく必要がある。

当該地域では、大阪城公園との近接性や交通利便性、各エリアの特性を活かし、民間開発等において、国際的な集客・滞在・商業空間の導入や都心における豊かな緑、水辺空間の魅力の形成を図る。

あわせて、各エリア内の施設における様々な取組やイベント等の効果的なプロモーションなどを図り、大阪城公園の観光客を地域内でより一層、回遊・滞在させることで、「国際観光拠点の強化」をめざす。



<https://coms-thanks.com/>
京橋公園・
コムズガーデン



商店街の広がり



松下IMPホール



住友生命
いずみホール



大阪城ホー



大阪城天守閣



ダブルツリー
byヒルトン大阪城



難波宮跡公園（北部ブロック）
およびパティオ大阪



COOL JAPAN
PARK OSAKA



大阪城港
リバークルーズ
©(公財)大阪観光局

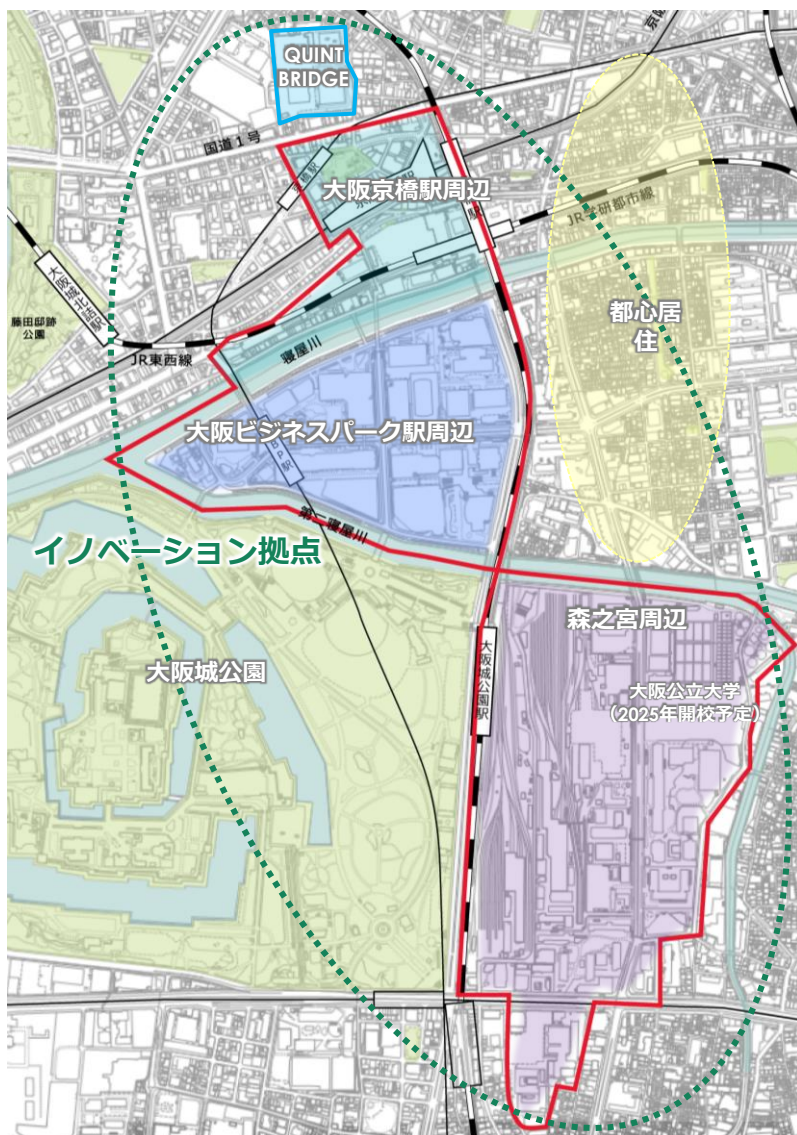
目標2：

ICTを軸にした「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の受入環境の整備」

大阪ビジネスパーク駅周辺にはICT関連を中心とした大企業が集積しており、京橋駅の北側に立地するNTT西日本のオープンイノベーション施設「QUINTBRIDGE」には多くのスタートアップ・ベンチャー企業等が集まっている。また、森之宮周辺では、令和7年秋に大阪公立大学森之宮1期キャンパスが開設予定で、さらに、1.5期開発において情報学研究科の移転、オープンイノベーション施設の整備も予定されており、このほか、公設試験研究機関である大阪産業技術研究所森之宮センターも立地している。

こうした多様なイノベーション関連施設が立地する中、当該地域では、産学官の連携を図ることにより、国際性・多様性のある人材・スタートアップ・ベンチャー企業等やアイデアの循環・交流によりイノベーションを創出するために、プラットフォームを設置する。

また、プラットフォームでの取組を踏まえ、民間都市開発等にあわせて、国内外のイノベーション拠点の中核的な機能やスタートアップ・ベンチャー企業等のための共創空間の導入、さらには、国際的に活躍する国内外の国際人材の受入環境の整備等を図ることにより、ビジネス・イノベーション創出の促進とともに、新たな国際人材の育成にも寄与することで、ICTを軸にした「国際的なイノベーション拠点の形成や国際人材の受入環境の整備」をめざす。



NTT西日本「QUINTBRIDGE」

- ・社会実装型オープンイノベーションによる事業共創を推進
- ・新たな価値創造をめざす大企業やスタートアップ・ベンチャー企業、大学、自治体などが集まる



大阪ビジネスパーク（OBP）

- ・ICT関連の企業や海外企業・人材の集積
- ・公開空地等豊富なパブリックスペースの存在
- ・企業のラボ、企業マッチング機能の立地



大阪公立大学
(森之宮キャンパス)

- ・都心メインキャンパスとして令和7年秋に第1期が開設予定
- ・1.5期開発において情報学研究科が移転予定



(地独)大阪産業技術研究所

- ・研究開発から製造まで、企業の開発ステージに応じた支援を一気通貫で提供
- ・産業界の将来を見据えた多様な技術シーズを開発

目標3：

「人・モノ・情報の交流の促進」

目標1, 2を実現するためには地域内の観光客等のより一層の回遊性の向上や特徴あるエリアの人材・アイデアの地域内や国内外との交流を促進する必要がある。

このため、大阪京橋駅周辺においては、地域分断の解消や駅機能の集約化等に伴う利便性の向上をめざした JR片町線・東西線別線地下化（連続立体交差事業）を契機とした都市計画道路豊里矢田線の整備促進により、関西広域や周辺地域（大阪京橋駅周辺、森之宮周辺）をつなぐ道路ネットワーク・交通結節点の強化を図るとともに、森之宮周辺での新駅・駅前広場の整備にあわせた新たなモビリティの導入や、駅ビルにおける空飛ぶクルマの離発着場の検討をはじめ、多様な交通手段を受容できる交通結節点の形成をめざす。

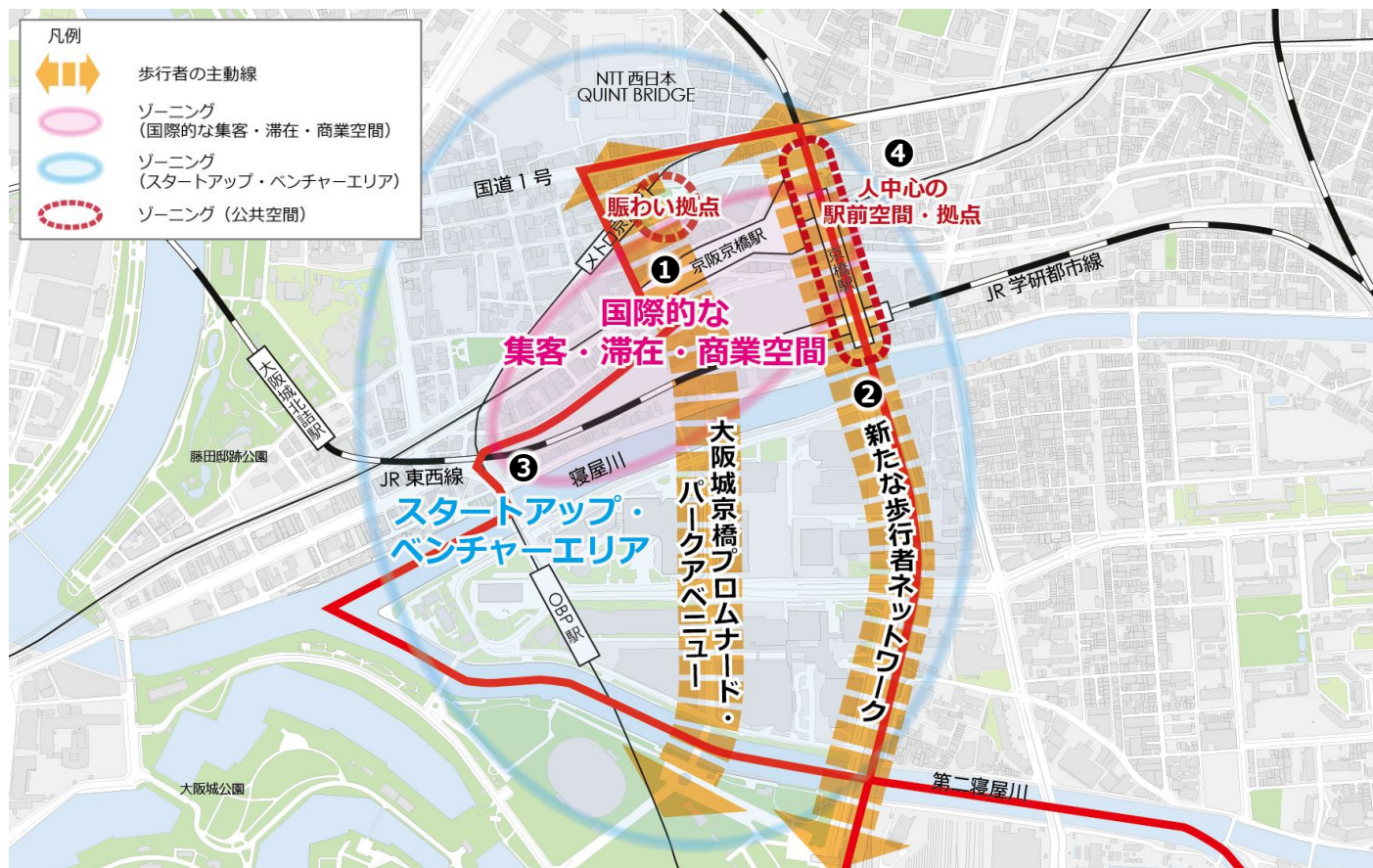
また、人中心の空間として、駅とまちが一体化し、災害に強い安全・安心なまちづくりを推進するとともに、地域全体の利便性、安全性、快適性に優れた歩行者ネットワークの構築や舟運との連携をめざし、大阪城公園から大阪ビジネスパーク駅周辺・大阪京橋駅周辺を結ぶデッキ等ネットワークの充実や、大阪城公園駅から森之宮周辺内の大阪公立大学や大規模集客・交流施設などにいたる歩行者空間の整備を図る。

こうした取り組みを通じて、地域内外の回遊性を高め、賑わいの創出を図ることで、「人・モノ・情報の交流の促進」をめざす。



- 大阪第4のターミナルである大阪京橋駅周辺では世界や関西広域拠点をお大阪でつなぐヒガシの玄関口として、Connective City 京橋の実現をめざす。
- 駅前では、国内外からの観光客を呼び込む集客施設や滞在を促す宿泊施設などの複合開発により、「国際的な集客・滞在・商業空間」及び「賑わい拠点」の形成を図る。
- 大阪城公園の観光客の受け皿となる国際競争力のあるホテルや集客施設、界隈性のある賑わい空間を有する周辺地域等が連携した国際的なプロモーションの展開を図る。
- ICT関連を中心とした企業・人材の集積やイノベーションを想起・誘発させる共創空間等の既存施設を活かし、大阪公立大学の学生等の若者や海外企業など多様なパートナーと連携したビジネス・イノベーションの創出を図ることで、「スタートアップ・ベンチャーエリア」の形成をめざす。
- さらに、当該エリア全体において、民間都市開発や既存ビルのリノベーションにあわせ、官民一体となってスタートアップ・ベンチャー企業等を支援する中核機能の導入や共創空間の充実等を図る。
- 官民連携による駅とまちが一体化したまちづくりを推進し、社会課題や地域課題の解決とともに、広域交通拠点機能とアクセス機能強化に資する「人中心の駅前空間・拠点」の形成を図る。
- 歩行者主動線の再構築により「新たな歩行者ネットワーク」の形成を図るとともに、大阪城公園から大阪ビジネスパーク駅周辺、京橋駅周辺をつなぐ安全で快適な動線を確保するため、「大阪城京橋プロムナード・パークアベニュー」における美装化等のウォークブル空間の充実を図る。

《大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺の土地利用の方針》



取組例

①国際的な集客・滞在・商業空間及び賑わい拠点

- 国際競争力のあるホテルや基幹商業、観光コンシェルジュ空間をはじめとした観光客の回遊・滞在を促す機能の整備
- 国際的な魅力発信に向けたナイトカルチャーに資する空間の整備や、緑豊かなオープン空間の整備
- 各主体が取り組む観光関連情報の収集や効果的な発信等、大阪城公園周辺地域全体での連携体制の構築の検討
- カーボンニュートラルに向けた、環境に配慮した機能の導入
- 国際人材などが快適に居住できるよう、ハイグレードなレジデンス機能を強化するとともに、これを支える生活利便施設を導入
- 来阪する外国人の家族や海外を志向する学生が学べる場の導入の検討
- 災害時における帰宅困難者や一時避難者を受け入れる避難スペースや体制等の整備

②歩行者の主動線

- デッキ等による歩行者ネットワークの整備

③スタートアップ・ベンチャーエリア

- 国際的なイノベーション拠点の形成に向けた検討会の設置
- スタートアップ・ベンチャー企業の国際的なビジネス展開や共創を支援する施設の検討
- 公開空地や河川等公共的な空間を活用した実証フィールドとなる環境の構築の検討
- 国際競争力のある企業等の誘致も促すような国際水準のスマートオフィスの整備
- スタートアップ・ベンチャー企業等でも手軽に入居可能な条件を備えたオフィススペースの整備

④人中心の駅前空間・拠点

- にぎわい・憩いの創出に資する人中心の広場を備えた駅前空間・拠点の形成
- 新たなモビリティやタクシー等の交通結節点となる南北の駅前ロータリー等の整備
- 関西国際空港や新大阪駅などの広域交通拠点とのアクセス強化

- 大阪公立大学を先導役にして、観光集客・健康医療・人材育成・居住機能等の集積により、多世代・多様な人が集い、交流する国際色あるまちを目指し、「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」（令和2年大阪府・市策定）に基づく下記の取組を推進する。
- イノベーション・コアゾーンを中心とした1.5期開発については、大規模集客・交流空間や1.5期キャンパスなどの整備（令和7年2月開発事業者の公募開始）や駅・駅ビルの検討・整備など、「1.5期開発の開発方針」（令和6年大阪府・市策定）に基づく施設の整備を進める。
- また、2期開発に向け、多世代居住複合ゾーンにおける土地利用などの検討を進める。

《大阪城東部地区のまちづくりの方向性における土地利用計画》

①イノベーション・コアゾーン

- 1期としては、土地の高度利用を図りながら、まちに開かれた新大学の都心キャンパス（森之宮キャンパス）を整備する。
- 1.5期として、民間活力を導入し土地の高度利用を図りながら、大学施設関連機能を中心に、国際色ある業務・商業・宿泊・居住などの多様な交流・連携機能等を確保してイノベーションの誘発を図る。

②親水空間+立体活用ゾーン

イノベーション・コアゾーンと連担し、

- 河川との親水性や大阪城公園との一体性を図る。
- 鉄道施設・下水処理場等の上部利用等により、立体的な土地の高度利用を図る。

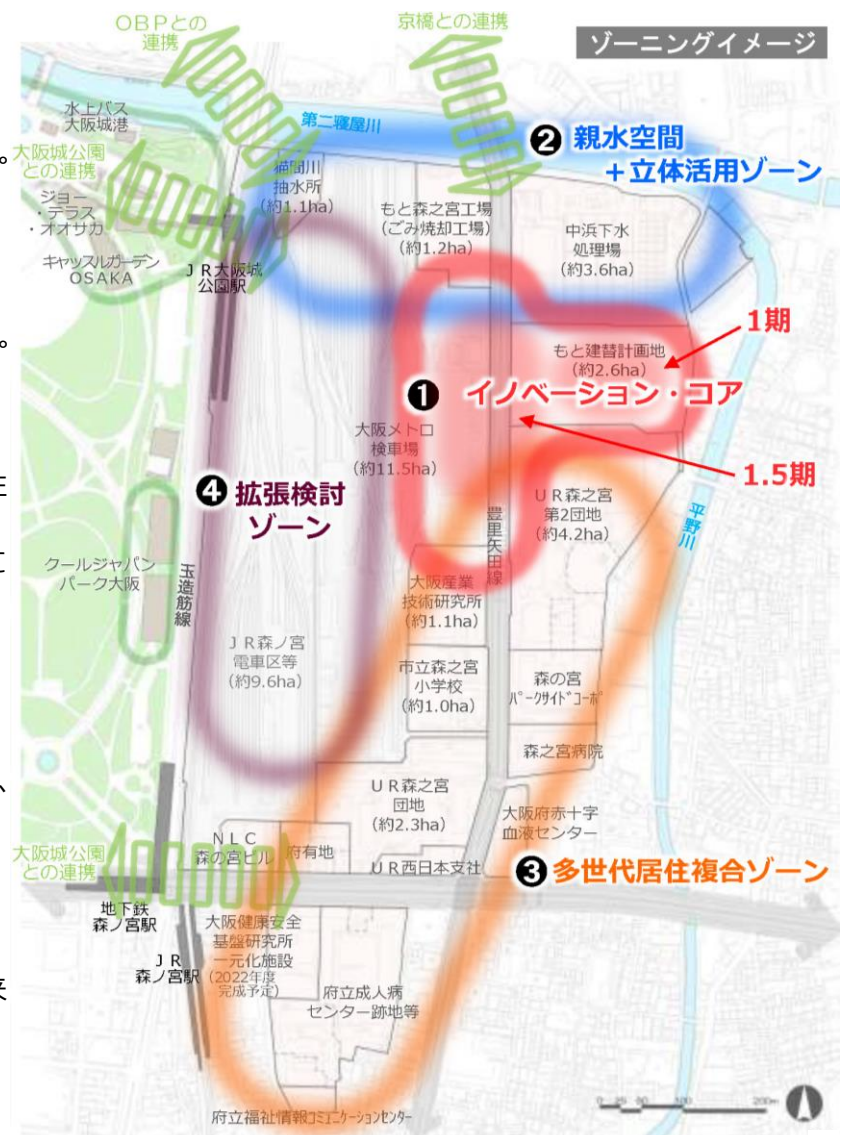
③多世代居住複合ゾーン

イノベーション・コアゾーンと連担し、

- 複数立地する健康医療機能等と連携し、スマートイジングシティの取組みを展開しながら、多様な世代が健康で安心して住み続けられる、にぎわいにも寄与する商業・業務なども含めた住環境の実現を図る。

④拡張検討ゾーン

- 当面は鉄道施設として継続利用し、将来的には、社会動向や地区内のまちづくりの動向を踏まえ、上部利用範囲の拡大や土地利用転換等も検討する。



《1.5期開発の開発方針における土地利用の方針》

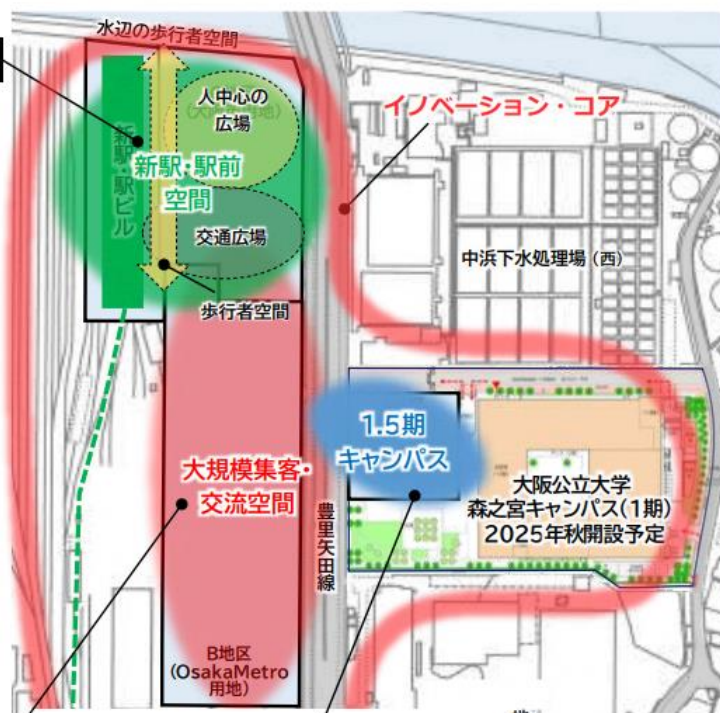
- ・イノベーション・コアゾーンの実現に向け、その中核となる大阪公立大学の1.5期キャンパスについては、民間活力導入による情報学研究科等の整備や森之宮キャンパスの機能増進、大学機能との相乗効果を期待した施設整備を行うことにより、「知の拠点」の形成を図る。
- ・また、駅前立地と大規模用地を活かし、国内外からの集客や大阪城ホールとの相乗効果を発揮するとともに、大阪公立大学を中心とした学术交流・ビジネス交流促進や、市民の交流にも寄与するアリーナ・ホール等を中心とした複合開発により、集客・交流空間の形成を図る。
- ・さらに、新駅及びその上部空間を高度利用した駅ビル、駅ビル屋上への空飛ぶクルマのポート整備とともに、鉄道、バスなど様々な交通を有機的に結ぶ交通結節点となる交通広場や、にぎわい・憩いの創出に資する人中心の広場を備えた新駅・駅前空間の形成を図る。
- ・今後、土地利用の方針や基盤整備の方針などをもとに、土地利用転換にあわせた地区計画の変更を検討するとともに、区域全体で施設の最適な配置となるよう一体的な開発を推進する。

新駅・駅前空間

- 新駅の設置、上部空間を高度利用した駅ビルにおける商業機能等の複合的な駅ビルを整備
駅ビル屋上には空飛ぶクルマの離発着場の整備を検討
- 鉄道、バスなど様々な交通を有機的に結ぶ交通結節点となる交通広場
 - ・公共交通を中心としたロータリーの整備
 - ・新たなモビリティの導入、検討
オンデマンドバス
パーソナルモビリティ
自動運転バスの検討 など
 - ・将来の新たなモビリティの導入に対応できるスペースの確保
- にぎわい・憩いの創出に資する人中心の広場
 - ・交流機能・サービス機能等を備えた広場等の整備
 - ・災害時の防災活動拠点にも資する広場等の整備

大規模集客・交流空間

- 1万人以上の大規模集客・交流施設を中心とした複合的な機能の導入



1.5期キャンパス

- 民間活力導入によるキャンパス整備
 - ・情報学研究科
 - ・都市シンクタンク機能
 - ・インキュベーション機能 など
- 民間提案による施設整備

《大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺の基盤整備の方針》

○JR片町線・東西線の別線地下化（連続立体交差事業）

- ・地域分断の解消や駅機能の集約化等に伴う利便性の向上を図るとともに、土地利用価値の向上に資するよう①JR片町線・東西線の別線地下化（連続立体交差事業）による事業再開を図る。

○道路ネットワークの構築や交通結節機能の強化、市街地の一体化・大街区化による土地の高度利用

- ・関西広域や周辺地域をつなぐ道路ネットワークの強化とともに当該地区内の自動車の通過交通を抑制するため、②都市計画道路豊里矢田線を整備促進する。
- ・地区内交通については、片町茨田線及び石切大阪線と豊里矢田線の接続により、アクセス性の向上を図るとともに、③地区内の南北道路を新設し、地区内交通の円滑化や地区の活性化を図る。
- ・また、関西国際空港方面等とのバス路線や、大阪城周辺の各エリアを結ぶ新たなモビリティやタクシー等の④交通結節点となる南北の駅前ロータリーを整備する。
- ・こうした基盤整備を踏まえ、区画整理手法等を活用した土地の再配置等による市街地の一体化・大街区化を図る。

○ウォーカブルな空間の充実

- ・にぎわい・憩いの創出に資する⑤人中心の広場を備えた駅前空間・拠点の形成をめざし、JR京橋駅と京阪京橋駅間の空間のあり方を検討するとともに、都市計画道路玉造筋線の計画を見直す。
- ・利便性・安全性に優れた歩行者ネットワークの再構築をめざし、大阪城公園から大阪ビジネスパーク駅周辺、京橋駅周辺をつなぐため、既存のルートである大阪京橋プロムナード・パークアベニューの連続性のあるにぎわい豊かな歩行者空間の構築に加えて、面的なバリアフリー化を図りながら、官民連携して新たな⑥歩行者ネットワークを整備する。

基盤整備の方針図（整備イメージ）



凡例

- 自動車的主動線
- ① JR 片町線・東西線の別線地下化
(連続立体交差事業)※
- ② 都市計画道路豊里矢田線
- ③ 地区内南北道路の整備
- ④ 交通結節点
- ⑤ 人中心の広場を備えた駅前空間・拠点
- ⑥ 歩行者ネットワーク

・図で設定している区域・動線の具体的な内容や位置、スケジュールは今後、各プロジェクトの進捗にあわせて協議・検討

※現在、事業休止中であるJR片町線・東西線連続立体交差事業は、今後必要な手続き等を経て事業再開の判断がされる。現在、上記ルートを前提に各種調査・検討・調整を実施

- 「大阪城東部地区のまちづくりの方向性」に基づく下記の取組みを推進する。
- イノベーション・コアゾーンを中心とした1.5期開発エリアについては、大阪城公園接続デッキや水辺の歩行者空間、民間開発地内における歩行者通路の確保など、「1.5期開発の開発方針」に基づき、歩行者空間の整備を進める。また、2期開発に向け、多世代居住複合ゾーンにおける土地利用などを踏まえた基盤整備の検討を進める。

《大阪城東部地区のまちづくりの方向性における基盤整備計画》

① 利便性の向上

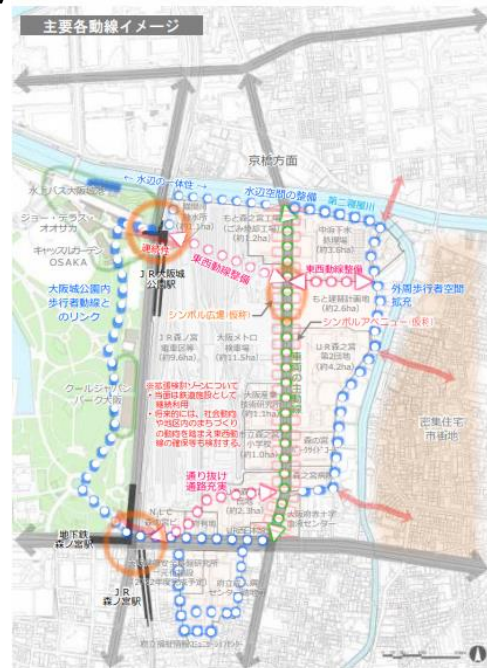
- 今後、新大学整備をはじめとした大規模開発に伴い、交流・定住人口の大幅な増加が見込まれるなか、それらの人々の利便性向上のため、現在不足している「鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保」を図る。

② 快適性の向上

- 緑豊かな大阪城公園や、第二寝屋川等にも接する立地を活かし「水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保」を図る。(ウォーカブルシティやアクティブデザインの概念を取り入れる)

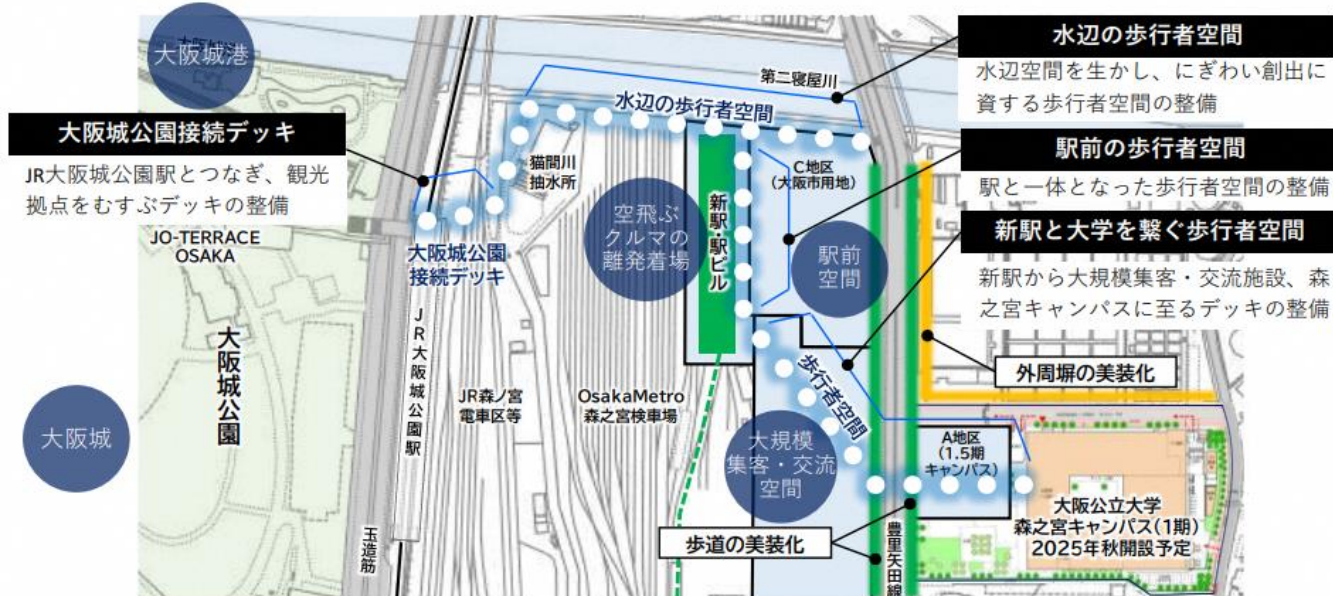
③ 安全性の向上

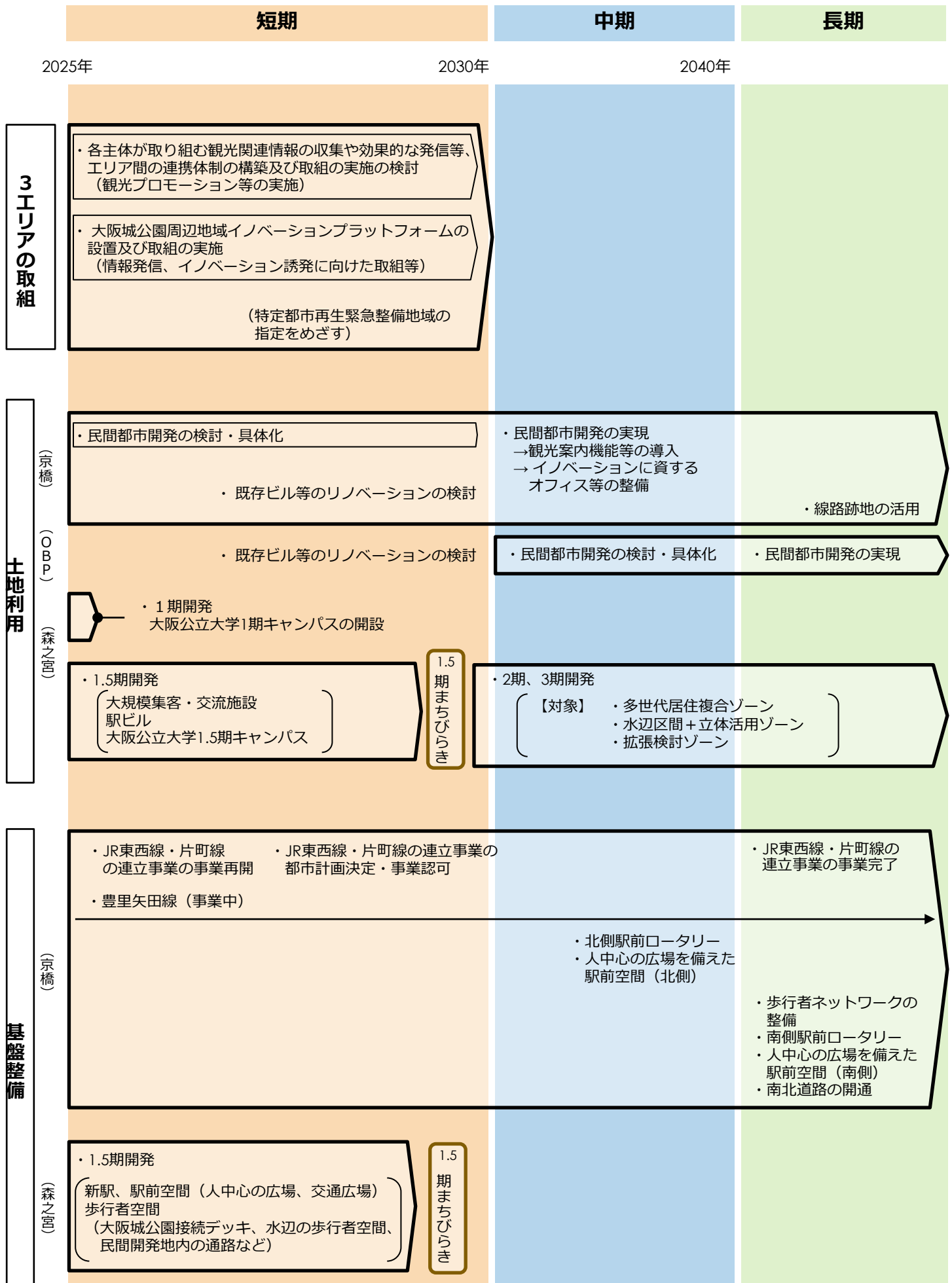
- 歩道が無い、または、狭い区間における歩行者空間の拡充や、東側の密集住宅市街地から広域避難場所である大阪城公園への複数の避難ルートの確保など「交通・防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保」を図る。



《1.5期開発の開発方針における基盤整備の方針》

- 大学キャンパスから大規模集客・交流施設、新駅・駅ビル・水辺の歩行者空間、大阪城公園駅をつなぐ、利便性・快適性・安全性に優れ、バリアフリー化された歩行者空間のネットワーク化をめざす。
- 広域的な観光振興の観点から、大阪城公園（大阪城、大阪城港等）と開発地区（空飛ぶクルマの離発着場（VP）や大規模集客・交流施設等）の観光拠点をもつ、にぎわいの創出や回遊性を高める。
- 民間開発にあわせた歩行者空間の整備や確保、水辺の歩行者空間の整備とともに、公民が協働したデッキなどの整備により連続した動線の整備を進める。





参考資料

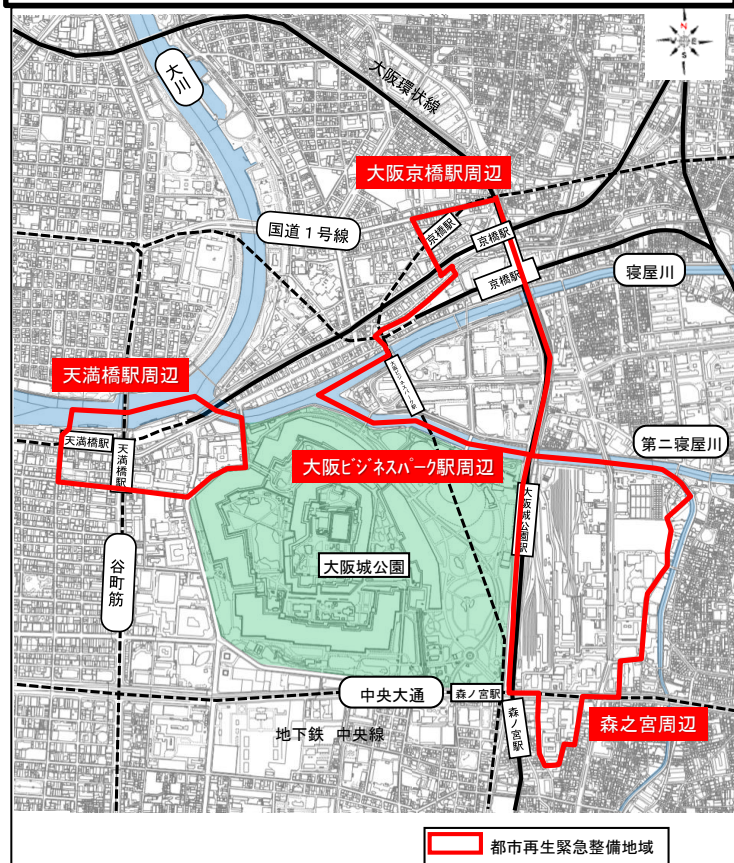
■都市再生緊急整備地域の指定・拡大の経緯

- ・平成24年1月20日指定：（大阪ビジネスパーク駅周辺、天満橋駅周辺）
- ・平成29年8月2日拡大：（大阪京橋駅周辺）
- ・令和2年9月16日拡大：（森之宮駅周辺）

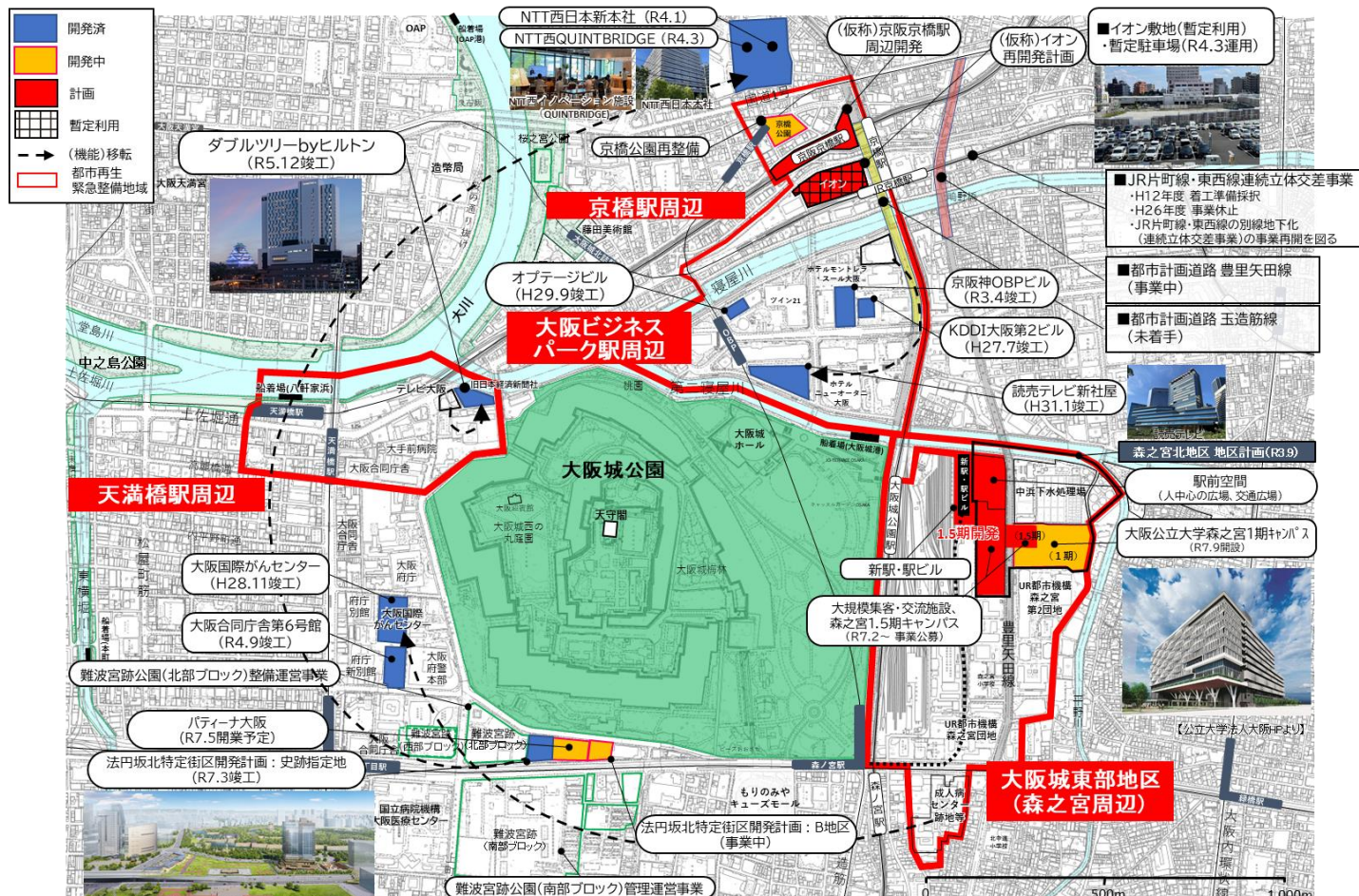
【大阪城公園周辺地域／
都市再生緊急整備地域（整備の目標）】

- ・充実した交通インフラ、豊かな自然環境等の立地条件を活かし、環境への配慮や防災性の向上を図りながら、既に集積している高次都市機能のリノベーション（機能更新）を進め、魅力ある複合的な国際拠点を形成
- ・大阪都心部最大級のみどりがあり、国際観光拠点である大阪城公園に隣接した交通ターミナルとして、観光客など来訪者の誘致や滞在を促進する複合的な都市機能の集積を図り、関西広域の観光資源を繋ぐハブ拠点を形成

大阪城公園周辺地域<121ha>



■ 開発動向（令和7年3月時点）



■大阪のまちづくりグランドデザイン（大阪府・大阪市・堺市／令和4年12月）

世界で存在感を発揮する拠点エリア

「大阪城・周辺エリア」＜観光・文化・学術・産業の融合エリア＞

大阪のシンボルであり、国際観光拠点でもあるみどり豊かな大阪城公園を中心に、にぎわいの創出や回遊性の向上を図るとともに、大阪公立大学を先導役とした多世代・多様な人が集い交流する国際色あるまちづくりや、駅周辺における魅力ある複合的な国際拠点の形成を推進し、観光・文化・学術・産業の融合エリアの形成をめざす。

- ・ **大阪城公園の魅力を活かしたまちづくり（世界的観光拠点の形成）**
 - PMO（Park Management Organization）によるにぎわいの創出
 - 周辺開発との連携によるみどり・水のネットワークを活かしたにぎわいの連続
- ・ **難波宮跡の歴史魅力の向上（Park-PFIなど）**
- ・ **大阪城東部地区における大阪公立大学を先導役とした多世代・多様な人が集い交流する国際色あるまちづくり**
 - 大阪公立大学森之宮キャンパスを中心とした産学官民連携機能の集積による新たなイノベーション創出
 - 旧府立成人病センター跡地などの活用による多様な世代が健康で安全に住み続ける居住環境の実現
 - 鉄道駅や大阪城公園とつなぐ利便性・快適性・安全性に優れた水辺空間の実現
 - Osaka Metro新駅やスマートモビリティ等を活用した交通アクセスやポテンシャルの向上
 - 公共施設の上部利用による土地の有効活用
- ・ **天満橋、京橋及び大阪ビジネスパーク駅周辺における魅力ある複合的な国際拠点形成**
 - 複合的な都市機能の集積、業務・商業・観光機能の強化
 - 関西広域の観光資源をつなぐハブ拠点の形成



大阪公立大学森之宮キャンパスのイメージ
出典：公立大学法人大阪HP

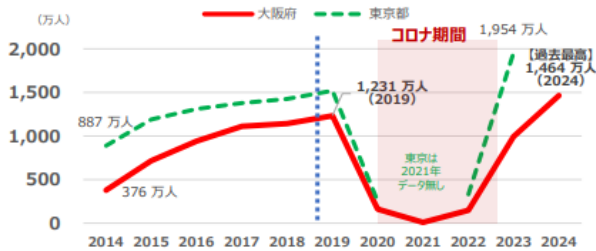


難波宮跡公園整備運営（北部ブロック）、
管理運営（南部ブロック）イメージ
提供：難波宮跡公園「みんなのにわ」プロジェクト

■大阪経済の動き／インバウンド関連

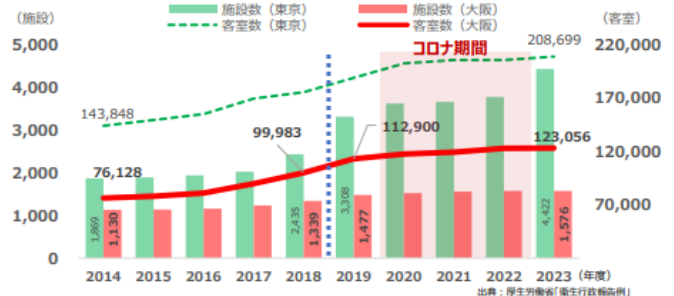
- 「飲食・宿泊」はコロナによりダメージを受けたが、2024年にインバウンドが過去最高の見通しなど、直近では回復傾向。
- 宿泊施設数・客室数は大きく増加しており、増大するインバウンド需要や、約2,800万人が来場する万博に向けて伸びていると想定される。

来阪外国人旅行者数



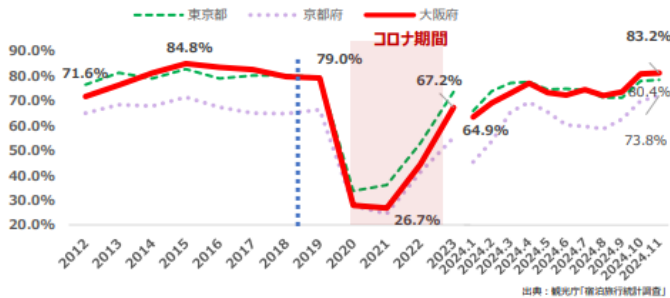
出典：大阪・大阪観光局 推計値、東京：「東京都観光客数等実態調査」

宿泊施設数・客室数



出典：厚生労働省「衛生行政概況」

宿泊施設の客室稼働率



出典：観光庁「観光統計調査」

【参考】大型ホテルの開業 (APIR資料より)

※範囲：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県

2019年：9件	2023年：8件
2020年：14件	2024年：13件
2021年：7件	2025年：6件
2022年：6件	

- ・来阪外国人旅行者は2024年に過去最高の1,464万人の見通し（大阪環境局発表（推計値））
- ・客室稼働率は、直近（2024年11月）で83.2%と高い稼働率

出典：Beyond EXPO 2025 ～万博後の大阪の未来に向けて～《現状報告》

■大阪城公園への来訪者

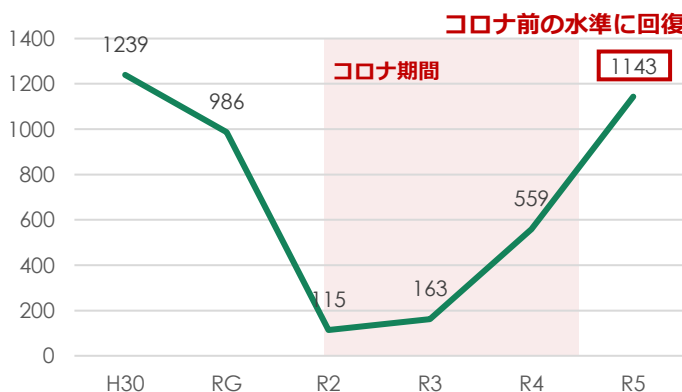
2023年度、大阪城公園来園者数 約1,140万人
 天守閣入場者数のみで 約240万人
 （コロナ前の94.2%まで回復）
 インバウンド比率が高い
 （コロナ前6割⇒7割強に増加）

出典：大阪城公園パークマネジメント令和5年度事業報告書

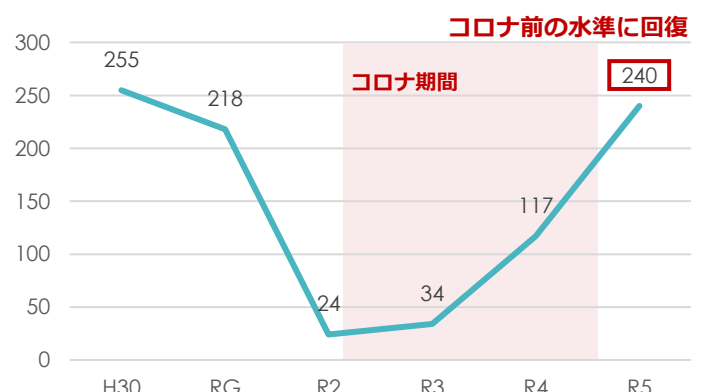
順位	施設名	2014年度来場者
1位	ユニバーサル・スタジオ・ジャパン	1270万人
2位	海遊館	219万人
3位	大阪城天守閣	184万人
4位	天王寺動物園	114万人
5位	ひらかたパーク	95万人

出典：レジャーランド&レクパーク総覧2016／総合ユニコム発行

大阪城公園本丸エリアへの来園者数（万人）



大阪城天守閣入館者数（万人）



出典：大阪城公園パークマネジメント事業報告書（平成30年から令和5年）

■ QUINTBRIDGEについて

オープンイノベーション施設

QUINTBRIDGE

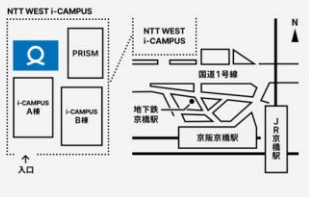
大阪・京橋のNTT西日本の本社敷地内に位置し、
一棟まるごと共創のためにデザインされた社外と地域に開かれた施設

■ 開業：2022年3月24日

■ 延床面積：約4,000m²

■ 構造：地上3階

■ 営業時間：平日 9時～21時
土曜 13時～18時
日祝 休館



**3F
事業拡大フロア**

・スタートアップと会員を支える
支援組織のオフィスフロア

入居企業
専用フロア

**2F
アイデア実現フロア**

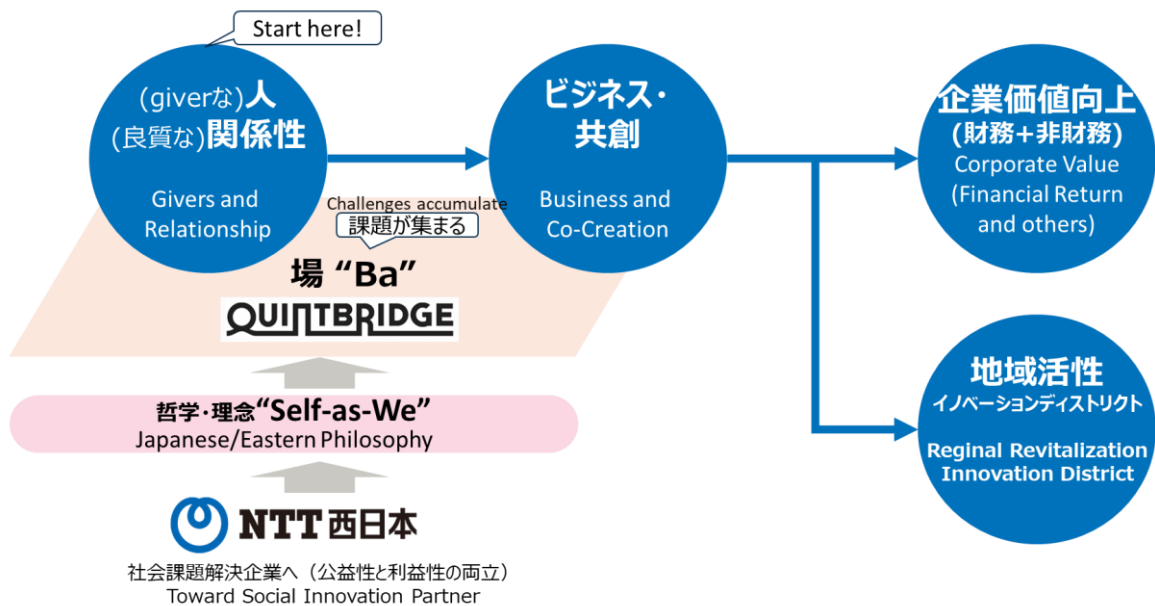
・モノづくりスペース、撮影配信
スタジオ、オープンキッチン等

会員は
誰でも
利用可能

**1F
新たな出会いフロア**

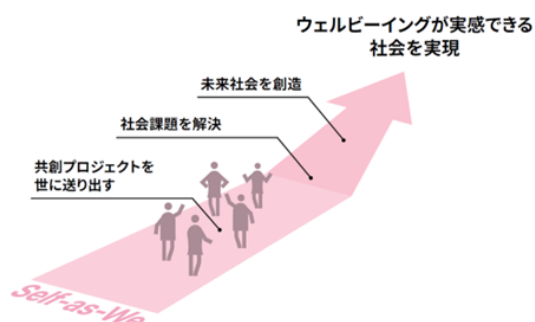
・100人収容の大空間、カフェ、
ワークショップスペース等

QUINTBRIDGEがもたらす価値



QUINTBRIDGEのパーパス

わたしたちは、次々と共創プロジェクトを世に送り出し、
『**社会課題の解決**』と『**未来社会の創造**』を成し遂げ、
ウェルビーイングが実感できる社会を実現する。



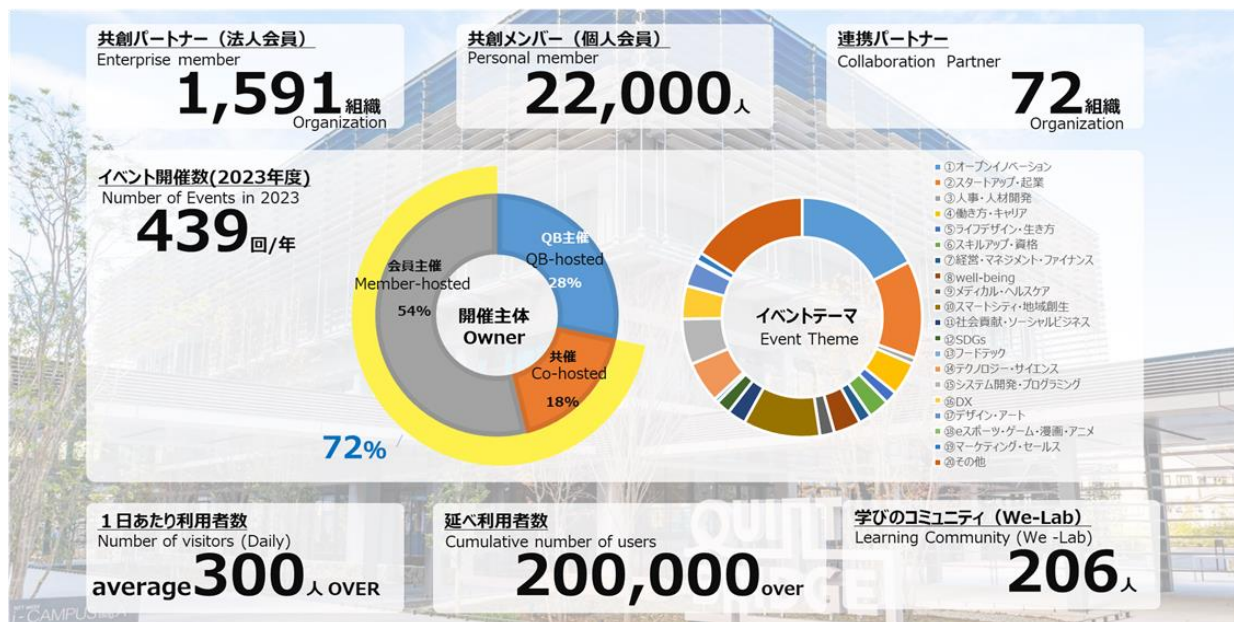
■ QUINTBRIDGEについて

QUINTBRIDGEとは

会員の皆さんそれぞれが
アセット・課題・フィールド・アイデアを持ち寄り、
 世の中に新たな価値を提供し、社会を前進させる場所



QUINTBRIDGE エコシステム基盤 (2024年9月末)



共感いただいた方は、ぜひ会員登録を

QUINTBRIDGE

- QUINTBRIDGEの会員には、QB共創パートナー(法人会員)とQBメンバー(個人会員)があります。
- 法人会員は部署・研究室などの単位でお申し込みとなります。(5名1口として、2口以上のお申し込みが可能)

会員区分	法人会員 QB共創パートナー	個人会員 QBメンバー
対象	法人	個人
入会要件	共創に向けた問い・アセットの提示(年1回の更新)	
1口あたり登録人数	5名	1名
施設利用時の同伴可能人数	会員1名につき、3名まで	
利用 ル ル	共創スペースの利用 ※1	1・2階
	公開イベントへの参加(セミナー、ワークショップ等)	○
	イベントの主催・共催 ※2	○
	マッチング(個人会員間)	○
	マッチング(法人会員間)	-
	法人会員限定プログラムの参加	-
	検証環境・FAB・配信ルームの利用 ※3	-
法人ロゴのWEBサイトへの掲載	○	-
入会金・年会費	無料	

※1 QUINTBRIDGE 3階は法人会員(入居企業)さまの占有エリアとなります。
 ※2 イベントの実施については利用目的等(共創に資する取り組みであること)について審査がございます。
 ※3 ご利用にあたりましては利用目的等(共創に資する取り組みであること)について審査がございます。

■OBP周辺エリアにおけるICT企業の集積

OBP周辺エリアは、情報通信関連企業の従業者数の割合が高く、ICT技術に関わる専門人材が多く集積していると考えられる。

【OBP】

【OBPに入居する主なICT関連企業】

OBPキャッスルタワー

・日本電気 他関連会社複数

ツイン21MIDタワー

・富士通 他関連会社複数

松下IMP

・NCS&A（エヌシーエスアンドエー）
・パナソニックEWエンジニアリング等

KDDI大阪ビル・大阪第2ビル

・KDDI 他関連会社複数

京阪神OBPビル

・Digital Edge（本社：シンガポール）
・エクイニクスジャパン（本社：米国）

富士通関西システムラボラトリ

・富士通 他関連会社複数

Ytv京橋ビル

・パナソニックコネクト

【京橋駅周辺の主なICT関連企業】

NTT西日本本社

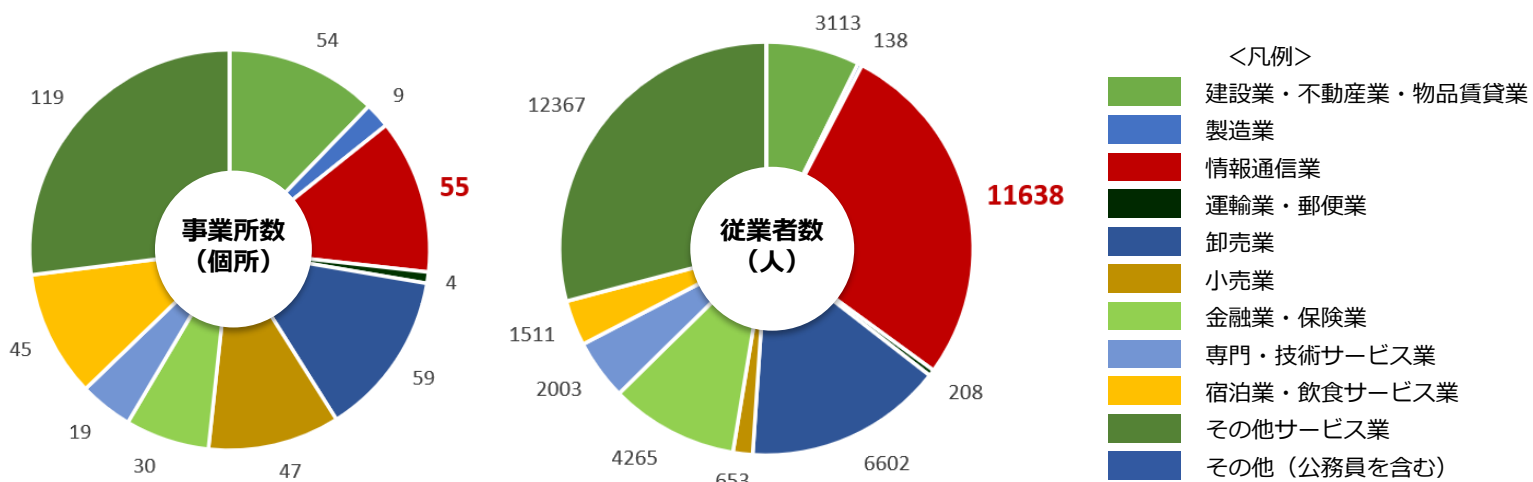
・NTT西日本 他関連会社複数

2025.3調査



(出典) 大阪ビジネスパーク協議会ホームページより (<https://obp.gr.jp/obp>) 2025.3

【OBP】



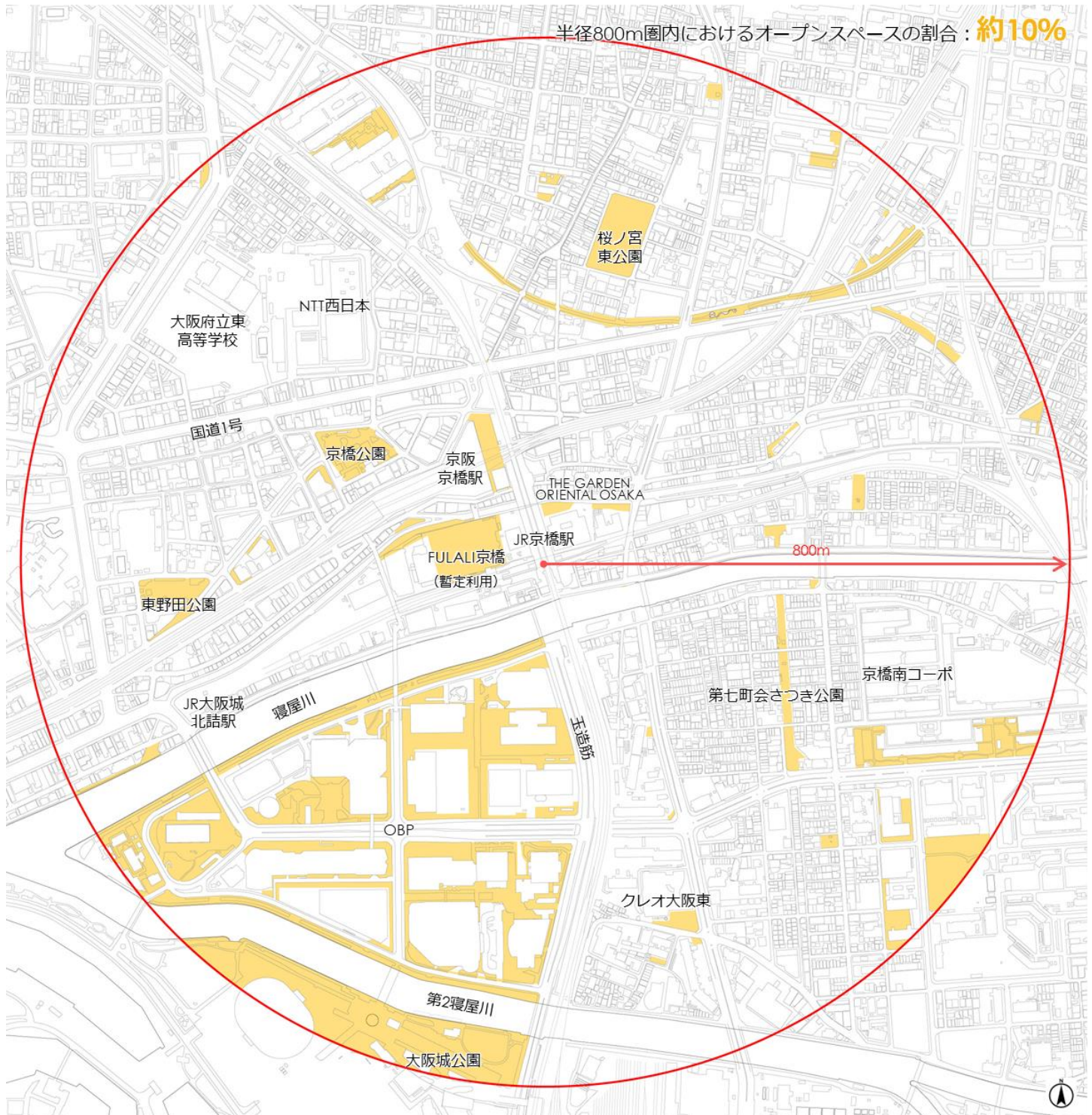
出典：令和3年経済センサス・活動調査／事業所に関する集計・産業横断的集計
事業所数、従業者数（町庁・大字別結果）-27大阪

- ・ OBPは、**突出して情報通信業の従業者数の割合が大きい**

■ターミナル周辺のオープンスペース

OBPの公開空地、京橋公園、川沿いの親水空間など多様なオープンスペースを有する。

【京橋駅周辺】



※オープンスペースについては、公園や公開空地等の人が立ち入れるエリアを対象としている。ただし、地形図をベースに計測しているため実際の面積とは異なることがある。

出典：国土地理院発行 地形図25000を加工して作成

■居住地としてのポテンシャル

京橋駅は大阪第4のターミナルで交通利便性が高く、乗降客数も多いが、家賃相場が他のターミナルと比較して低く、スタートアップ・ベンチャー企業や学生の居住地の受け皿として、ポテンシャルが高いと考えられる。

【住宅の家賃相場】

京橋駅の家賃相場平均（赤線）：6.13万円

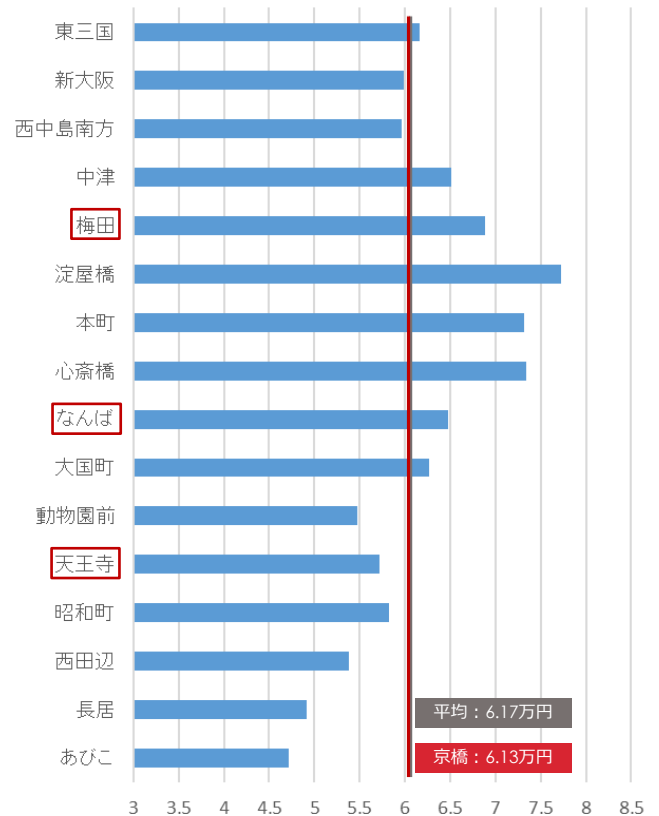
御堂筋沿道各駅との家賃相場比較（ワンルーム・1K・1DK）

- 御堂筋線沿線（大阪市内／あびこ～東三国）の家賃相場平均（灰色線）6.17万円と比較するとほぼ平均値
- 梅田6.89万円・なんば6.48万円より低く、天王寺5.72万円より高い水準
（類似駅）東三国、新大阪、西中島南方、大国町
（最高値）淀屋橋：7.73万円
（最低値）あびこ：4.71万円

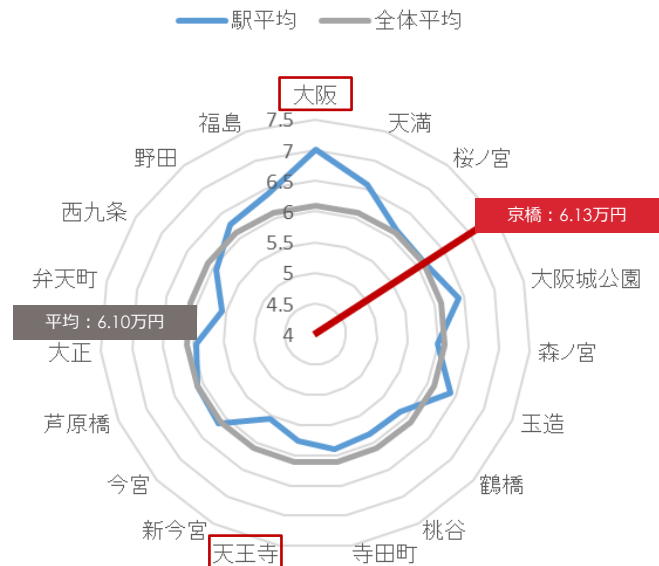
大阪環状線沿線各駅との家賃相場比較（同上）

- 大阪環状線の家賃相場平均（灰色線）6.10万円と比較するとほぼ平均値
（類似駅）桜ノ宮、今宮、芦原橋

御堂筋線 平均1R～1DK相場



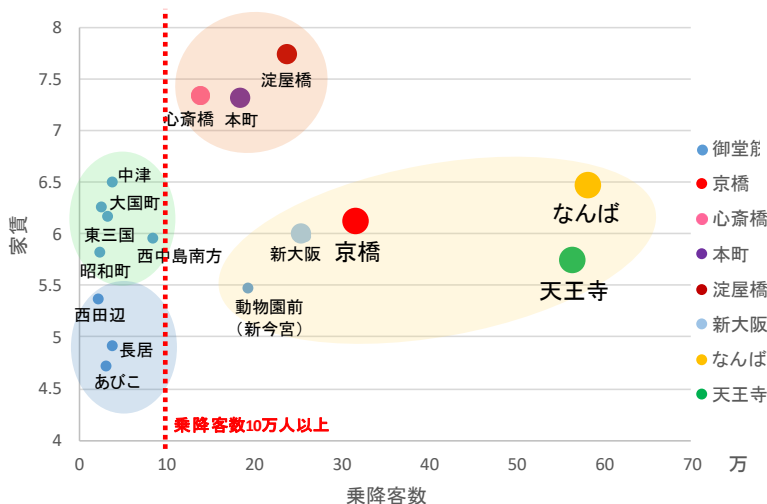
環状線 平均1R～1DK相場



【家賃相場と乗降客数】

- 大阪市の主要ビジネスエリアである、淀屋橋・本町・心斎橋駅の家賃相場が突出して高い（橙色）
- なんば・天王寺駅などは比較的家賃相場が低い（黄色）
- 京橋駅は新大阪駅と類似した傾向を示す
- 乗降客数10万人以下の駅では、家賃相場が6万円前後（緑）～5万円前後（水色）と比較的低水準となっている

御堂筋線 乗降客数と家賃の関係（梅田駅を除く）



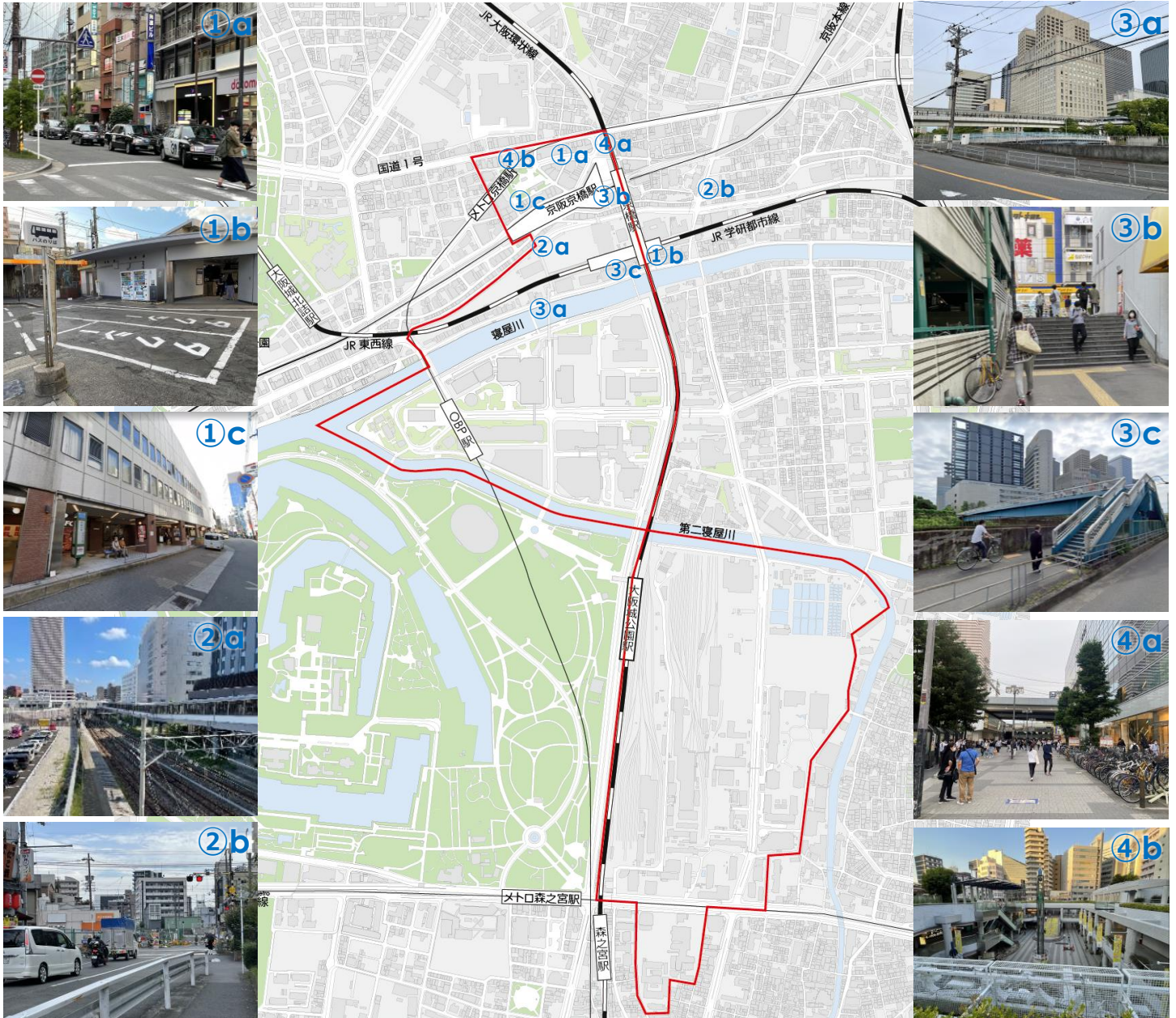
<注記>

- 家賃相場は、令和5年度に大手不動産賃貸情報ポータルサイトより調査
- 乗降客数は、令和3年度の国土数値情報より整理
- 各駅は分類上は御堂筋線と表記しているが、乗換駅も含めた乗降客数を合算している
- 梅田駅は乗降客数が突出して多く、外れ値であるため左のグラフでは除外している

■地域の現状と課題

【大阪京橋駅周辺・大阪ビジネスパーク駅周辺】

- 交通施設が各所に分散しており、交通結節機能が低い。（待機タクシーによる混雑・景観悪化、空港バス・観光バス乗場がない）（①）
- 鉄道による地区内の南北動線の分断、豊里矢田線未整備のため、エリア全体での回遊性が弱い。（②）
- 京橋駅・OBP・大阪城公園をつなぐ歩行者ネットワークが、上下移動、軸のずれ、交錯などにより分かりづらく、バリアフリー化されていない。（③）
- 京橋駅前は大阪第4のターミナルにも関わらず、乗り換え利用が大半で、人を惹きつけ・滞留したくなるような魅力的な公共的空間が不足している。（④）



【森之宮周辺】

○ 利便性の向上

- ・ 今後、新大学整備をはじめとした大規模開発に伴い、交流・定住人口の大幅な増加が見込まれるなか、それらの人々の利便性向上のため、現在不足している「鉄道駅と地区内とを円滑に繋ぐ歩行者動線の確保」を図る。

○ 快適性の向上

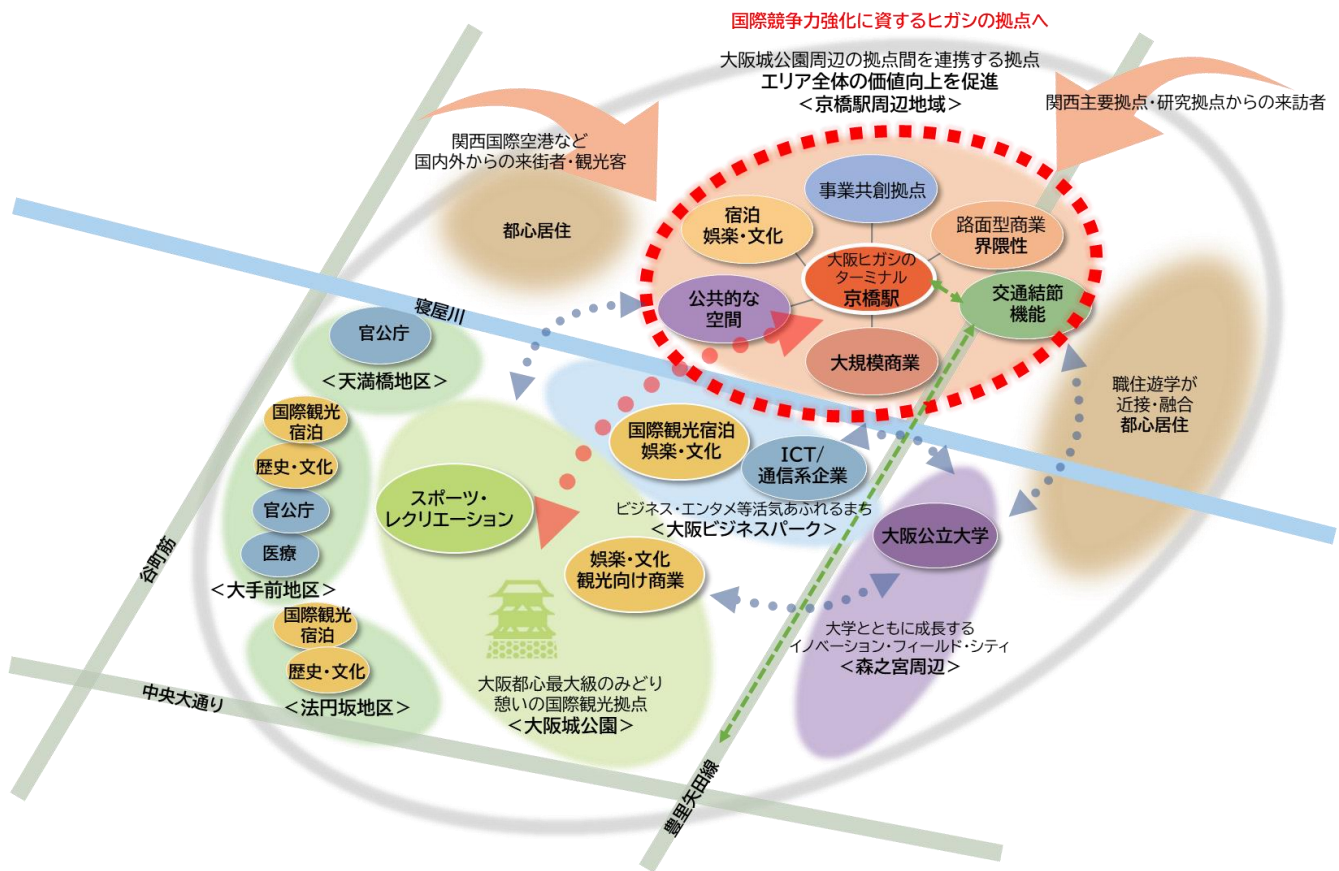
- ・ 緑豊かな大阪城公園や、第二寝屋川等にも接する立地を活かし「水・緑の空間を楽しく回遊でき、健康増進にも資する歩行者動線の確保」を図る。（ウォークアブルシティやアクティブデザインの概念を取り入れる）

○ 安全性の向上

- ・ 歩道が無い、または、狭い区間における歩行者空間の拡充や、東側の密集住宅市街地から広域避難場所である大阪城公園への複数の避難ルートの確保など「交通・防災の両面で安全性向上にも資する歩行者動線の確保」を図る。

『Connective City 京橋』

～世界や関西広域拠点と大阪をつなぐヒガシの玄関口～



将来イメージ

